

平成 14 年度日本光学会総会

平成 14 年度総会は 2003 年 3 月 28 日（金）に神奈川大学横浜キャンパスにおいて開催され、まず山本公明幹事長より幹事長挨拶が行われたのち、今年度の動向についての説明がありました。

- ・ OR の掲載論文数増加に向けて編集委員会で対策を検討している。電子ジャーナル化も検討しているが、Springer 社との現在の契約条件が問題になっている。
- ・ サマーセミナーは 2 泊 3 日では参加しづらいという意見があり、平成 15 年度は 1 泊 2 日で開催する。
- ・ OJ の検討ワーキンググループを作り、OJ2002 でのアンケート結果をふまえて平成 15 年度は平日に大学外で開催する。
- ・ ICO への加盟は、外国人会員 20%以上という条件ができたため、加盟できなかった。
- ・ 幹事選挙において、幹事会推薦者選考に関する基本的考え方を作成した。今後も幹事選挙方法の検討を引き続き行う。
- ・ 日本光学会の資料室が応用物理学会と同じビルに移転した。5 月頃から事務員を一人採用し、事務局機能を強化していく。
- ・ 平成 15 年度から企画運営委員会を充実させる。また産学連携推進事業を開始する。
- ・ 塩川孝紳庶務幹事より平成 14 年度事業報告および平成 15 年度事業計画、田中賢一会計幹事より平成 14 年度決算報告および平成 15 年度予算案が提示され承認された。
- ・ 総会に先立ち平成 14 年度光学論文賞授賞式が行われ、外林秀之氏（MIT および通総研）と渡辺歴氏（大阪大）が受賞された。総会終了後外林氏と渡辺氏による光学論文賞受賞記念講演が行われた。

なお、日本光学会の平成 14 年度事業および平成 15 年度の計画などに関する情報は、第 32 巻第 7 号の「日本光学会平成 14 年度年次報告」の中に詳細が掲載される予定です。